2024年12月 現在

FUJITSU Software
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V17.0.0

Systemwalker Centric Managerは、情報システムの運用管理を行うための統合基盤となる商品です。

Systemwalker Centric Manager（システムウォーカーセントリックマネージャー）は、システム運用のライフサイクル（導入/設定～監視～復旧～評価）に従い、ソフトウェア資源の配付、システムやネットワークの集中監視、リモートからのトラブル復旧などの優れた機能で運用管理作業を軽減します。また、このライフサイクル管理によりマルチプラットフォーム環境やインターネット環境など、最新のビジネス環境におけるシステムの統合管理、運用プロセスの標準化（ITIL）、運用セキュリティの統制を支援します。

Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition では、基幹系業務に最適な大規模・高信頼・高付加価値な機能を提供します。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

適応機種　概要

- **業務サーバ**

  SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Cloud Service for SPARC

- **運用管理クライアント**

  FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- **クライアント**

  FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

Copyright 2024 Fujitsu Limited

適応OS　概要

- **業務サーバ**

  Solaris 11(64bit)

- **運用管理クライアント**

  Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1

- **クライアント**

  Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1

Copyright 2024 Fujitsu Limited

1. セールスポイント

Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionでは、Systemwalker Centric Manager Standard Editionのセールスポイントに加えて、以下の機能メリットがあります。Systemwalker Centric Manager Standard Editionのセールスポイントは、Systemwalker Centric Manager Standard Editionのソフトウェアガイドの「セールスポイント」を参照ください。

【システムのセキュリティ強化を実現できます】

・操作履歴の収集を行い、履歴情報より問題ある操作がなかったかを追跡できますので、特権を持つ運用者・管理者からの情報漏洩リスクの低減が図れます。

・Systemwalkerコンソールから操作できるサーバと操作内容を限定することができますので、運用管理作業時の不用意な操作によるオペミスを軽減できます。

【高信頼システムに対応しています】

・クラスタシステムを管理することで、高信頼システムの構築を支援します。

・LAN二重化システムを管理することで、高信頼ネットワークの構築を支援します。

・運用管理サーバを二重化することで運用管理作業の信頼性を向上できます。

・クラスタシステムを利用して管理サーバ（運用管理サーバ／部門管理サーバ）を高信頼化することで、運用管理作業を高信頼化することができます。

【大規模システムを効率よく集中管理できます】

・運用管理サーバを階層化することで、大規模システムも効率よく管理できます。

・部門と全社で運用管理作業を分担することができます。部門側で対処できない問題をセンタで管理したり、昼間は部門で監視して夜間はセンタで監視といった運用が可能になります。

・他社の運用管理ソフトの情報も集約して監視／管理できます。管理製品の異なる複数の業務システムを一元管理することで、運用コストを削減できます。

・サイトごとにホスト名やIPアドレスが重複した環境でも、一台の全体監視サーバで集中監視できますので、複数の顧客環境を管理することもできます。

2. 機能詳細

Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionでは、Systemwalker Centric Manager Standard Editionの全機能に加えて、以下の機能を提供します。Systemwalker Centric Manager Standard Editionの詳細は、Systemwalker Centric Manager Standard Editionのソフトウェアガイドの「機能詳細」を参照ください。

なお、Solaris版は業務サーバのみの提供となります。運用管理サーバ、部門管理サーバ、Open監視サーバなど業務サーバ以外はWindows版またはLinux版をご利用ください。

【セキュリティ】

(1) コンソール操作制御

管理者の資格に応じて、Systemwalker コンソールから操作できるサーバーと操作内容を限定することができるため、運用管理作業時の不用意な操作によるオペレーションミスを軽減できます。

また、Systemwalker コンソールの操作内容を監査ログとして出力し、問題ある操作がなかったかを追跡できます。

更に SMARTACCESS に対応する認証デバイスと連携することで、セキュリティ強化を行うことができます。

【高信頼システム構築機能】

(1) クラスタシステムの監視

クラスタシステムで構築した業務サーバを管理することができます。

Microsoft(R) Fail Over Clusteringで実現する多ノードクラスタサーバー（業務サーバ）も監視できます。

(2) 管理サーバーのクラスタ対応

Systemwalker自身の管理機構をクラスタシステムで動作させることができます。運用管理サーバ／部門管理サーバの片方のノードに障害が発生しても、正常な別ノードで監視業務を引き継ぐことができますので、監視業務の高可用性を実現できます。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

(3) 管理サーバーの冗長二重化

2台の運用管理サーバを冗長化して監視します。片側の運用管理サーバがダウンした場合でも、別の運用管理サーバで監視を継続できるため、24時間365日の継続監視が実現できます。また、各サーバーを離れた拠点に設置できるため、災害に強い運用管理システムが構築できます。

【大規模システム構築機能】

(1) 全体監視（管理サーバの階層化）

各部門に運用管理サーバを設置し、各部門の運用管理サーバをセンターの全体監視サーバで一元管理することができます。この階層管理により超大規模なシステムも管理できるため、運用管理のアウトソーシングなどにも利用できます。部門側で対処できない問題をセンターで管理、昼間は部門で監視して夜間はセンターで監視、といった運用が行えます。

3. 利用による効果

効率的で集中的な運用管理により、安定した分散処理業務の運用が可能になります。

・分散システムの監視コストの削減

複数の被監視システムを一台の運用管理サーバで集中監視できるため、被監視システムの監視コストが削減できます。また、ポリシー運用により、分散システム全体を運用管理者が想定したポリシー通りに管理することができます。

・運用管理作業の軽減

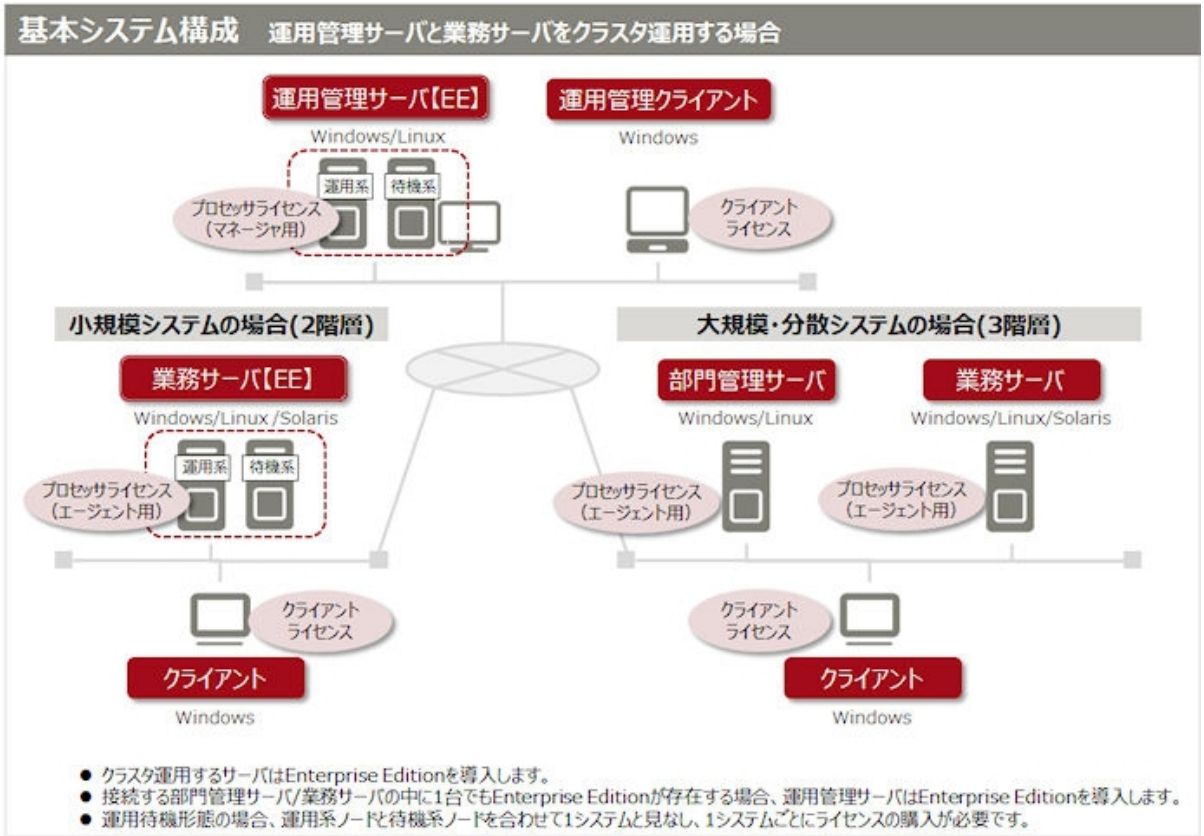
分散システムでの資源配付やインベントリ管理などの煩雑な運用管理作業の軽減が図れ、工数の削減ができます。また、ビジュアル化された監視画面により、ネットワーク障害やシステム障害の通知と発生箇所の検出が簡単になり、迅速な対応ができます。

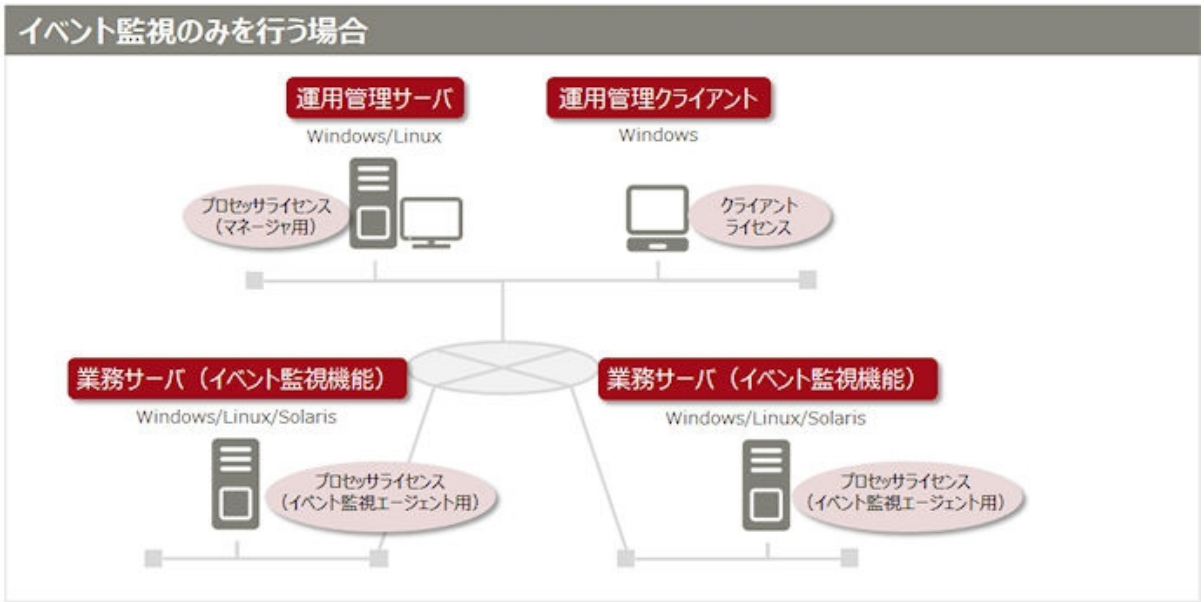
・高信頼なシステム構築

運用管理サーバ、部門管理サーバ、および業務サーバをクラスタシステム上で動作させることによって、片方のノードで障害が発生しても、もう一方のノードで監視業務を続行することが可能です。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

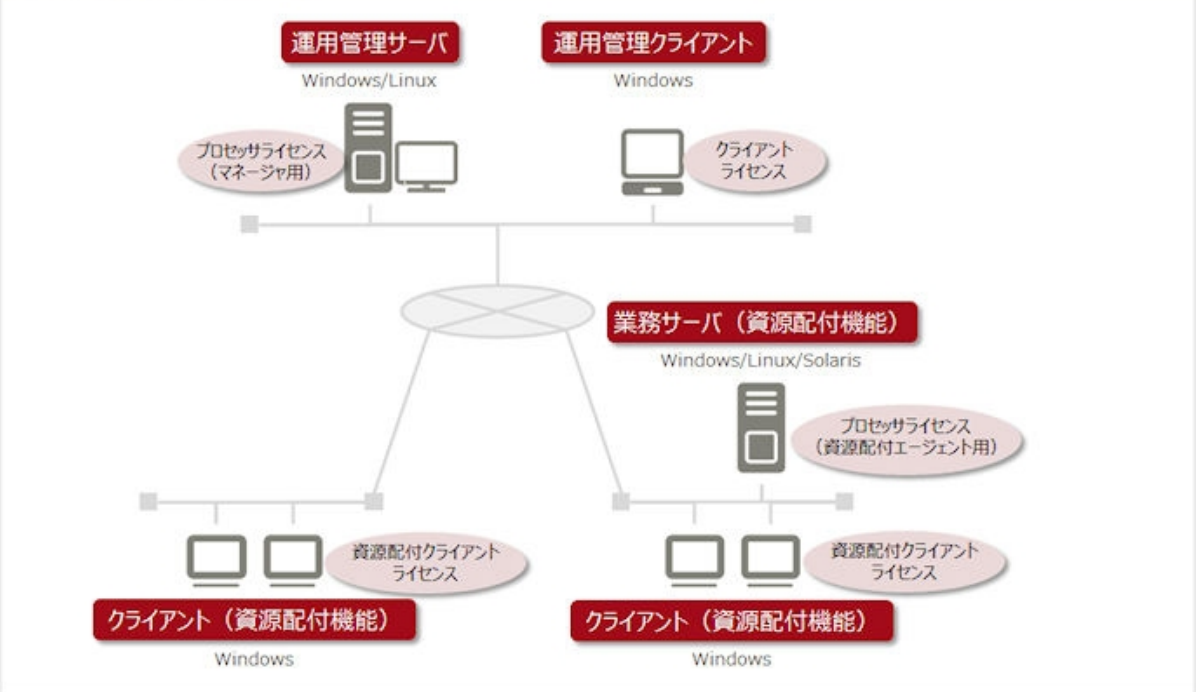
システム/機能構成図





Copyright 2024 Fujitsu Limited

資源配付のみを行う場合



Copyright 2024 Fujitsu Limited

V15.1.1からV17.0.0への機能強化項目は、以下のとおりです。

1. 動作環境の拡大

・クライアント（クライアント、運用管理クライアント）のサポートOSの追加

- Windows 10
- Windows 10 (64-bit)

Copyright 2024 Fujitsu Limited

標準添付品

- **オンラインマニュアル**

  ・オンラインマニュアルについては、留意事項の「オンラインマニュアルについて」を参照ください。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

商品体系

【メディア】

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition メディアパック(エージェント用) (32bit) V17.0.0

【永続ライセンス】

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(エージェント用) (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用) (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(資源配付エージェント用) (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(エージェント用) アップグレードキット (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager 20クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager 1資源配付クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager 20資源配付クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V17

本商品の永続ライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

【サブスクリプションライセンス／サポート】

[サブスクリプションライセンス／サポート(月額払い)]

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 20クライアントライセンス (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 1資源配付クライアントライセンス (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 20資源配付クライアントライセンス (SL&S)

[サブスクリプションライセンス／サポート(まとめ払い)]

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 20クライアントライセンス (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 1資源配付クライアントライセンス (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 20資源配付クライアントライセンス (SL&S) 7年

Copyright 2024 Fujitsu Limited

購入方法

1. Enterprise Editionを購入する条件

(1) 業務サーバ

以下の場合に、Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionのエージェント用商品を購入してください。

・クラスタシステムの場合

2. メディアパックについて

メディアパックは、媒体(DVD)のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックが必要です。

バージョンアップ／レベルアップを目的に本メディアパックのみを手配することはできません。

3. プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。

・シングルコアプロセッサの場合は、1プロセッサ（CODモデルの場合はCPU RTUライセンスを持つ1稼働CPU）あたり1本の購入が必要です。

・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

-SPARC M12/M10では、CPUコアアクティベーションキーにより有効化されたコアの総数に特定の係数を乗じます。

-SPARC Enterprise/PRIMEPOWERのCODモデルでは、CPU RTUライセンスを持つ稼働CPU上のコアの総数に特定の係数を乗じます。

-マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）」内、「ライセンスについて、くわしく知る」を参照ください。

・業務サーバには（エージェント用）、システムのイベント監視機能だけが必要な業務サーバには（イベント監視エージェント用）、資源配付機能だけが必要な業務サーバには（資源配付エージェント用）の各種ライセンスを必要数分手配願います。（エージェント用）のライセンスは、（イベント監視エージェント用）および（資源配付エージェント用）を包含しています。

また、本ライセンスは、Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で、アプリケーション監視、サーバ性能監視を行う場合にも選択可能です。インストールレス方式で監視する場合に購入が必要なライセンスの詳細は下記の「(注)」を参照ください。

・イベント監視エージェント用ライセンスは、従来、Systemwalker Event Agentで提供していた、業務サーバの機能のうち、イベント監視機能に限定して提供するライセンスです。システムのイベント監視機能だけが必要な業務サーバには、本ライセンスを手配してください。

また、本ライセンスは、Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で、シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集を行う場合にも選択可能です。インストールレス方式で監視する場合に購入が必要なライセンスの詳細は下記の「(注)」を参照ください。

・資源配付エージェント用ライセンスは、従来、Systemwalker Software Deliveryで提供していた、業務サーバの機能のうち、ソフトウェア資源（ユーザデータ、およびインストールパッケージ）を配付する機能に限定して提供するライセンスです。資源配付機能だけが必要な業務サーバには、本ライセンスを手配してください。

・以下を導入する場合は、Windows版またはLinux版を導入してください。ライセンスの購入方法についてはWindows版またはLinux版のソフトウェアガイドを参照してください。

- 運用管理サーバ
- 部門管理サーバ
- Open監視サーバ
- Open監視プロキシ

Copyright 2024 Fujitsu Limited

- Open監視エージェント

(注) Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で監視する場合について

インストールレス方式では、利用する機能の違いによって購入が必要なライセンスが異なります。

- インストールレス方式で、シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集を行う場合は、監視するサーバに搭載されているプロセッサ数(マルチコアプロセッサ搭載サーバの場合はコア数)に応じて、Systemwalker Centric Manager プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)の購入が必要です。

- インストールレス方式で、アプリケーション監視、サーバ性能監視、シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集を行う場合は、監視するサーバに搭載されているプロセッサ数(マルチコアプロセッサ搭載サーバの場合はコア数)に応じて、Systemwalker Centric Manager プロセッサライセンス(エージェント用)の購入が必要です。

4. クライアントライセンスについて

(1) 購入方法について

・運用管理クライアント：

運用管理クライアントをインストールする台数分のクライアントライセンスを購入してください。サーバの台数には依存しません。

・クライアント：

資源配付、インベントリ管理およびリモート操作等のクライアント機能をインストールする台数分のクライアントライセンスを購入してください。サーバの台数には依存しません。

・資源配付クライアント：

資源配付クライアントライセンスは、従来、Systemwalker Software Deliveryで提供していた、クライアント機能のうち、ソフトウェア資源（ユーザデータ、およびインストールパッケージ）を配付する機能に限定して提供するライセンスです。クライアントのうち、資源配付のクライアント機能だけをインストールする台数分のライセンスを購入してください。サーバの台数には依存しません。

(2) サブスクリプションライセンス／サポートでの最新プログラムの提供について

サブスクリプションライセンス／サポート契約 の一環として、最新バージョン/レベルのプログラムを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

5. Oracle Real Application Clusters運用時の購入について

Oracle Real Application Clusters(Oracle RAC)は、Oracle データベースをクラスタ構成にするソフトウェアです。Oracle RACが導入されているサーバを監視するために、Systemwalker Centric Managerの業務サーバを導入してください。その場合、Systemwalker Centric Manager Standard Edition（エージェント用）ライセンスでご利用になれます。

6. 購入時の特約事項

ライセンス使用条件の特約事項について記載します。

●永続ライセンスの契約におけるライセンス使用条件の特約事項

［プロセッサライセンス(エージェント用) 、プロセッサライセンス(エージェント用) アップグレードキットに適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、ライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) インストールレス型エージェントについて

Copyright 2024 Fujitsu Limited

Systemwalker Centric Managerのマネージャ用プログラムに含まれる「インストールレス型エージェント」を利用すると、管理対象とするサーバ（以下「業務サーバ」といいます）にSystemwalker Centric ManagerのAgent用プログラムをインストールすることなく、業務サーバを監視できるようになります。お客様は、本製品により、上記「インストールレス型エージェント」を利用して、業務サーバを監視することができます。この場合に必要となるライセンス数は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号記載のライセンス数に関する定義に従うものとします。

(3) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(4) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

［プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)に適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、ライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) インストールレス型エージェントについて

Systemwalker Centric Managerのマネージャ用プログラムに含まれる「インストールレス型エージェント」を利用すると、管理対象とするサーバ（以下「業務サーバ」といいます）にSystemwalker Centric ManagerのAgent用プログラムをインストールすることなく、業務サーバを監視できるようになります。お客様は、本製品により、上記「インストールレス型エージェント」を利用して、業務サーバを監視することができます。この場合に必要となるライセンス数は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号記載のライセンス数に関する定義に従うものとします。

(3) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(4) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

［プロセッサライセンス(資源配付エージェント用)に適用されるライセンス使用条件］

(1) 運用待機構成時

Copyright 2024 Fujitsu Limited

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、ライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(3) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

●サブスクリプションライセンス／サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項

［1クライアントライセンス、20クライアントライセンス、1資源配付クライアントライセンス、20資源配付クライアントライセンスに適用されるライセンス使用条件］

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」第(1)号および第(2)号、またはライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

7. 購入例

前述「システム／機能構成図」の「基本システム構成」の場合、購入対象商品と購入数は下記のようになります。

【システム構成】

- 運用管理サーバ[Linux]　(2コア、2CPU 構成) ： 2台（運用系、待機系）(※)
- 業務サーバ　[Solaris]　(2コア、2CPU 構成) ： 2台（運用系、待機系）(※)
- 部門管理サーバ[Linux]　(2コア、2CPU 構成) ： 1台
- 業務サーバ　[Solaris]　(2コア、2CPU 構成) ： 1台
- 運用管理クライアント ： 1台
- クライアント　： 2台

(※)運用待機形態の場合、運用系ノードと待機系ノードを合わせて1システムとみなし、システムごとにライセンスの購入が必要です。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

【対象製品と購入数】

〔メディアパック〕

・Linux版 Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition メディアパック V17

・Linux版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition メディアパック V17

・Solaris版 Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition メディアパック(エージェント用)(32bit) V17

・Solaris版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition メディアパック(エージェント用)(32bit) V17

→ 各1枚

〔ライセンス〕

・Linux版 Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(マネージャ用) V17

→ 運用管理サーバ[Linux] (2コア×2CPU×コア係数)×1システム分

・Solaris版 Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(エージェント用) V17

→ 業務サーバ[Solaris] (2コア×2CPU×コア係数)×1システム分

・Linux版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(エージェント用) V17

→ 部門管理サーバ[Linux] (2コア×2CPU×コア係数)×1台分

・Solaris版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(エージェント用) V17

→ 業務サーバ [Solaris] (2コア×2CPU×コア係数)×1台分

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (SL&S)

→ 運用管理クライアント × 1台分 ＋ クライアント × 2台分

8. バージョンアップ時の購入に関する留意事項(12.x以降からのバージョンアップ／レベルアップについて)

・以下の商品をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、新バージョンを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

・「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン商品を改めてご購入頂く必要があります（価格の優遇はございません）のでご注意ください。

【12.x以降からのバージョンアップ／レベルアップ対象商品】

Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition 12.x/V13/V15

Systemwalker Event Agent Enterprise Edition 12.x/V13

Systemwalker Software Delivery Enterprise Edition 12.x/V13

9. バージョンアップ時の購入に関する留意事項(11.0以前からのバージョンアップについて)

11.0以前の本商品をお持ちの場合は、弊社営業/SE にお問い合わせください。

10. ダウングレード使用について

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用（本商品の旧バージョンを使用)する権利はありません。

対象のバージョンを使用する場合は、対象のバージョンに対応したライセンスをご購入ください。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

関連ソフト

1. Systemwalkerファミリ製品との連携

データベースソフトOracleの稼働管理、トラブル分析、対処などを集中管理する場合、下記のいずれかのオプション製品の導入が必要です。

同一サーバ上にSystemwalker Centric Managerと以下のSystemwalker for Oracle製品を導入する場合には、32ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

〔オプション製品〕

・Systemwalker for Oracle Enterprise Edition V13.3.0以降

・Systemwalker for Oracle Standard Edition V13.3.0以降

2. マルチプラットフォーム対応

マルチプラットフォームの分散システムを管理する場合、各プラットフォームに対応したSystemwalker Centric Manager商品が必要です。

3. クラスタ運用を行う場合

以下のクラスタシステムが必要となります。

- PRIMECLUSTER Enterprise Edition 4.6まで
- PRIMECLUSTER HA Server 4.6まで
- PRIMECLUSTER Clustering Base 4.6まで
- Oracle Solaris Cluster 3.3/4.4

4. LAN二重化構成対応

LAN二重化の構成とする場合、以下の製品が必要です。

PRIMECLUSTER GL 4.6まで

5. コンソール操作制御を行う場合

コンソール操作制御でSMARTACCESSと連携して認証装置を使用する場合は、以下のどちらかのソフトウェアが必要です。

・SMARTACCESS/Basic（ハードの添付ソフトウェア）

・SMARTACCESS/Premium V5.5以降

6. 高信頼システム対応

業務アプリケーションをクラスタシステム上で運用する場合、業務サーバを各ノードに導入し、業務アプリケーションおよびシステムを監視することができます。

運用待機の形態では、運用系ノードのみ、Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition（エージェント用）ライセンスが必要です。待機系ノードのライセンスの購入は不要です。

その他の形態（相互待機型構成など）では、各ノードともSystemwalker Centric Manager Enterprise Edition（エージェント用）ライセンスが必要です。

7. SafeCLUSTER対応

この製品はSafeCLUSTERには対応しません。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

動作保証周辺機器

なし

Copyright 2024 Fujitsu Limited

留意事項

1. WindowsデスクトップOS(64-bit)上での動作

クライアント／運用管理クライアントは、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- Windows 8.1(64-bit)
- Windows 10(64-bit)

注：Windows 32-bit On Windows 64-bit

2. パッケージ構成について

Systemwalker Centric Manager Standard Edition メディアパック には、以下のプログラムおよびマニュアルが同梱されています。

V17のメディアパックでは、DVD媒体で提供します。

・Systemwalker Centric Manager メディアパック Disc 1

[サーバプログラム (32bit) Disc]

- エージェントプログラム(業務サーバ(32bit))【SE版/EE版】
- オンラインマニュアル
- ソフトウェア説明書

・Systemwalker Centric Manager メディアパック Disc 2

[クライアントプログラム (Windows(32bit)) Disc]

- クライアントプログラム(運用管理クライアント(Windows(32bit))、クライアント(Windows(32bit)))
- オンラインヘルプ
- オンラインマニュアル
- ソフトウェア説明書

3. インストールについて

メディアパックは、DVDで提供されます。

インストールにはDVDドライブユニットが必要です。

DVDドライブユニットが搭載されていないマシンの場合は別途手配が必要です。

なお、DVDドライブユニットを入手できない場合は、ファイル共有を利用したネットワークインストールが可能です。（ただし、ローカルのDVDドライブユニットと比べて作業時間を要します。）インストールする場合、DVD装置が接続されているPRIMERGYまたはFMVのDVDドライブをNFSにてマウントし、ネットワーク経由でインストールを行います。

4. 製品の組み合わせに関する注意事項

Solaris 11(64bit)上での製品組み合わせに関する注意事項です。

・グローバルサーバ上の帳票資源を資源配付で受信・中継する場合で、Solaris 上で動作する、Systemwalker Centric Manager製品と以下の製品を 同一サーバ上に導入する場合には、32ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

- Linkexpress V5.0以降

5. クライアント

Xウィンドウ上で動作するGUI画面はありません。サーバの環境設定ならびに監視コンソール用として、別途PC端末(AT互換機)に運用管理クライアントの導入が必要です。

以下の条件を満たすPC端末を用意してください。

・CPU： 2.0GHz 以上、メモリ：4GB以上

Copyright 2024 Fujitsu Limited

6. Oracle Solaris Legacy Container(zone)においてnon-global zone,kernel zoneを利用する場合の制限

non-global zone,kernel zoneのアプリケーションを管理／監視する場合、各non-global zone,kernel zoneに業務サーバをインストールする必要があります。

non-global zone,kernel zoneにおける性能情報の管理／監視を行うことはできません。

7. リモートデスクトップ接続を行う場合の注意事項

(1)SystemwalkerコンソールなどのGUIの複数起動について

リモートデスクトップ接続で同一コンピュータに複数のユーザがログオンしても、そのコンピュータ上で起動できるSystemwalkerコンソールは1つだけとなりますので、リモートデスクトップ接続時には、接続先のコンピュータ上でSystemwalkerコンソールを操作することができません。

このほかにも、インベントリ管理画面、ソフトウェア修正管理画面など、各GUIは1つだけ起動できます。

(2)電源制御について

電源切断対象の端末にリモートデスクトップ接続を行っている状態で、クライアントの電源切断を行った場合、電源切断が中止されます。

強制的に電源切断を行いたい場合は、電源切断オプション指定する必要があります。

(3)接続形態について

以下の操作については、リモートセッションで接続した場合は使用できませんので、コンソールセッションで接続してください。

- Systemwalkerのインストール
- バックアップ
- 保守情報収集ツール

(4)利用できない機能

以下の機能は、リモートデスクトップ接続での使用はできません。

- 環境作成
- リストア
- リモートコマンドAPI

8. プラットフォームとバージョンの混在について

(1) プラットフォームやバージョンを混在して接続した場合について

使用できる機能は、それぞれのSystemwalker Centric Managerが共通でサポートしている範囲です。

(2) 運用管理サーバと部門管理サーバ／業務サーバの組み合わせについて

プラットフォームの混在環境において、マネージャ（運用管理サーバ）とエージェント（部門管理サーバ、業務サーバ）は、V/Lが異なっていても接続できます。

本製品を、旧V/Lの運用管理サーバ、部門管理サーバ、または、業務サーバと接続した場合、旧V/Lの機能範囲で使えます。

(3)運用管理サーバと運用管理クライアントの接続性について

〔V13.0.0以降V13.3.1以前の場合〕

運用管理サーバと運用管理クライアントは、同一OS版の同一メジャーバージョン間でだけ接続可能です。

ただし、メジャーバージョンが同一であっても、旧マイナーバージョン(レベル)の運用管理クライアントから新マイナーバージョン(レベル)の運用管理サーバには接続できません。

〔V13.4.0 以降の場合〕

V13.4.0 以降の運用管理クライアントは、V13.4.0 以降の運用管理サーバにだけ接続できます。

また、V13.4.0 以降の運用管理サーバに接続できるのは、V13.4.0 以降の運用管理クライアントだけです。

接続できない場合は、接続時に運用管理クライアントに以下のメッセージが表示されます。

「このユーザは、指定した管理ドメインに対してログインを許可されていません。」

〔V15.0.0以降の場合〕

Copyright 2024 Fujitsu Limited

運用管理サーバと運用管理クライアントは、同一OS版の同一メジャーバージョン間でだけ接続可能です。

ただし、メジャーバージョンが同一であっても、旧マイナーバージョン(レベル)の運用管理クライアントから新マイナーバージョン(レベル)の運用管理サーバには接続できません

9. 他製品との共存について

Systemwalker Centric Managerと共存できないソフトウェアおよび共存時に注意が必要なソフトウェアは以下のとおりです。

〔共存できないソフトウェア〕

・運用管理クライアントとクライアントは、以下の製品とは共存できません。

- Systemwalker Live Help Client
- Systemwalker Live Help Expert
- Systemwalker Live Help Connect
- Systemwalker Desktop Patrolのリモート操作機能

・リモート操作機能を使用する場合は、以下の製品とは共存できません。

- 他社のリモートコントロール製品
- XenApp （MetaFrame および、Citrix Presentation Serverは、XenAppに名称が変更になりました。）

〔利用する機能により共存できない製品〕

・資源配付エージェントを使用する場合は、以下の製品と共存できません。

- Systemwalker Operation Manager V13.2.0以前

〔共存時に注意が必要なソフトウェア〕

・運用管理クライアントでは、以下の製品とは共存できません。

- Interstage Application Server Enterprise Edition V10以降
- Interstage Application Server Standard-J Edition V10以降
- Interstage Web Server Express V11
- Interstage Business Application Server Standard Edition V10.0以降
- Interstage Business Application Server Enterprise Edition V10.0以降
- Interstage List Works Enterprise Edition V9.0以降
- Interstage Shunsaku Data Manager Enterprise Edition V9以降

10. Windows 8.1、Windows 10での使用に関する注意事項

(1) システム監視

・イベントログへの出力文字列に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、そのメッセージを正しく監視できません。

・ログファイル監視機能を使用して対象のログファイルの内容に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、そのログを正しく監視できません。

・リモートコマンド発行におけるコマンド文字列（コマンド名、パラメタ）やその応答文字列に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、正しく実行できません。

(2) リモート操作

・JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含むユーザ／グループでWindowsにログインし、リモート操作クライアントを除くリモート操作の機能を使用することができません。

・リモート操作中にWindows 8.1/Windows 10の「ユーザの切り替え」を選択するとリモート操作が中断します。

・Clientにセッションを接続した状態で、「ログオフ」操作を実行するとセッションが自動的に切断します。

(3) アクション実行

・画面を表示するようなアプリケーションは指定できません。

(4) 文字コード

Copyright 2024 Fujitsu Limited

・JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を以下に指定しないでください。

- コンピュータ名
- GUI画面
- コマンドのオプション
- APIのパラメタ
- Systemwalkerスクリプトのスクリプトファイル、入力データ

11. インストールレス方式での監視について

(1) Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で業務サーバ/クライアントを監視する場合、Systemwalker Centric Managerをインストールした場合と比べ、下表のような差異があります。

(2) エージェントをインストールした場合はリアルタイムで監視しますが、インストールしない場合は一定時間間隔で情報を取得し、監視します。

(3) 1台の監視サーバで監視できる業務サーバ/クライアントは300台までです。301台以上の大規模構成の場合は、部門管理サーバを導入し、3階層構成にする必要があります。

(4) 本方式でのサポート対象プラットフォームについては、Systemwalkerのホームページを参照してください。

エージェントをインストールした場合との差異

記号の説明） ○：使用できます。 ×：使用できません。

機能	プロセッサライセンス(エージェント用)を購入した場合		プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)を購入した場合	
	エージェントをインストールした場合	インストールレス方式の場合	エージェントをインストールした場合	インストールレス方式の場合
インベントリ管理	○	○(注1)	○(注1)	○(注1)
イベント監視	○	○	○	○
リモートコマンド	○	○	○	○
ログファイル監視	○	○(注2)	○	○(注2)
アプリケーション監視	○	○(注3)	×	×
サーバ性能監視	○	○(注4)	×	×
リモート電源制御	○	×	×	×
監査ログ収集	○	×	○	×

注1） ハードウェア情報/ソフトウェア情報の一部のみ収集不可。
収集内容がエージェント導入の場合と異なる場合あり。

注2） ファイル名が途中で変わるログファイルは監視不可。
共有ディスク上のログファイルは監視不可。

注3） アプリケーションの稼働違反監視、プロセス数違反監視、稼働違反時のプロセス制御、稼働違反抑止/再開 が可能。

注4） しきい値監視（CPU使用率、実メモリ使用率、ディスク使用率）が可能。
ただし イベント自動対処は不可。復旧イベントで代替可能。

12. SAN boot/自動リカバリについて

被監視サーバにおいて、SAN boot環境で自動リカバリを行った場合、インベントリ情報として収集している以下のハードウェア情報と、実際の情報に差異が発生します。このような場合には、再度インベントリ情報を収集することにより、正しい情報に回復することができます。

・MACアドレス

・メモリサイズ

・CPUタイプ

・CPUクロック数

Copyright 2024 Fujitsu Limited

13. オンラインマニュアルについて

オンラインマニュアルは 以下のとおりです。

・Systemwalker Centric Manager マニュアル体系と読み方
・Systemwalker Centric Manager リリース情報
・Systemwalker Centric Manager 必須パッケージ 【Linux】
・Systemwalker Centric Manager 解説書
・Systemwalker Centric Manager 導入手引書
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編
・Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 資源配付機能編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 ソフトウェア修正管理機能編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 ユーザーズガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Clientガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Connect管理者ガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 グローバルサーバ運用管理ガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編（互換用）
・Systemwalker Centric Manager Interstage,Symfoware,ObjectDirectorとの共存ガイド
・Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
・Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド
・Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド
・Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書
・Systemwalker Centric Manager 高信頼化適用ガイド
・Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド（連携型）
・Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド（独立型）
・Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド UNIX編
・Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド Windows編
・Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド
・Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド DMZ編
・Systemwalker Centric Manager Open監視 ユーザーズガイド
・Systemwalker Centric Manager クラウド監視ユーザーズガイド
・Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent トラブルシューティングガイド 監視編
・Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Software Delivery トラブルシューティングガイド 資源配付編
・Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集
・Systemwalker Centric Manager 用語集
・Systemwalker Centric Manager Interstage Application Server 運用管理ガイド

14. IPv4ネットワーク／IPv6ネットワークの混在環境について

IPv4ネットワーク／IPv6ネットワークの両方を利用できます。

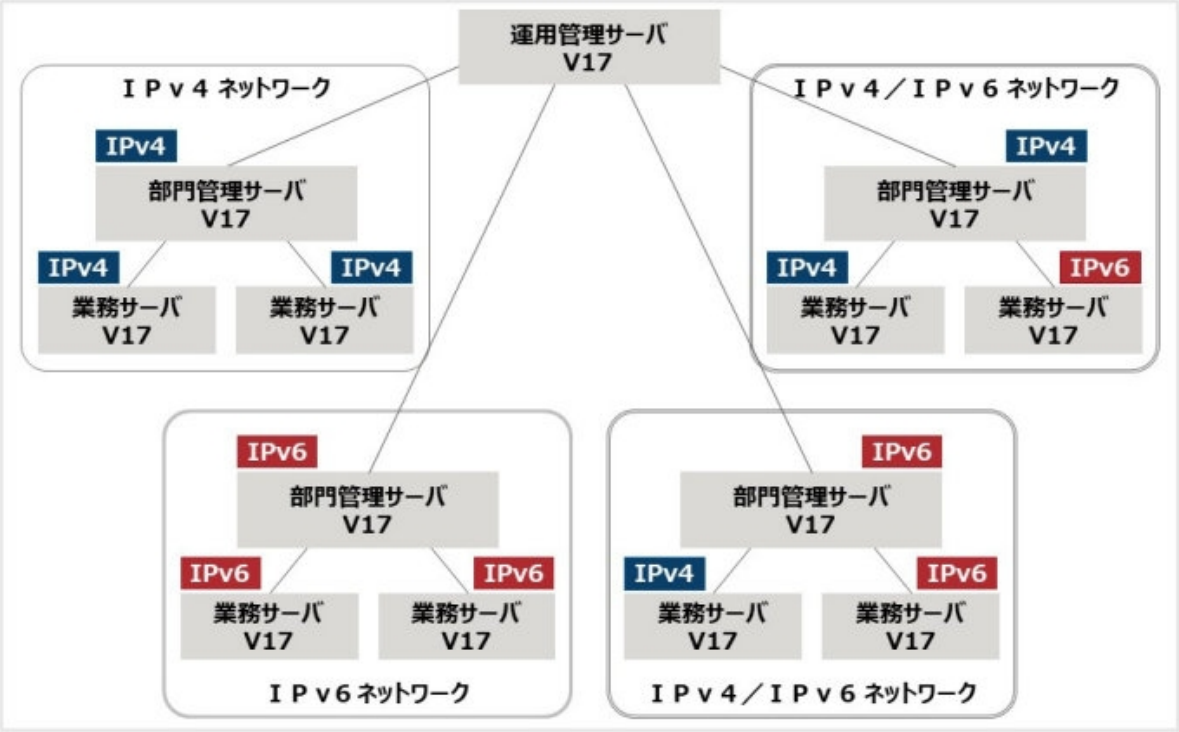
ただし、サーバ階層の上位にV13.5以前が存在するシステム構成の場合は、IPv6ネットワークは利用できません。

詳細は、以降の図を参照してください。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

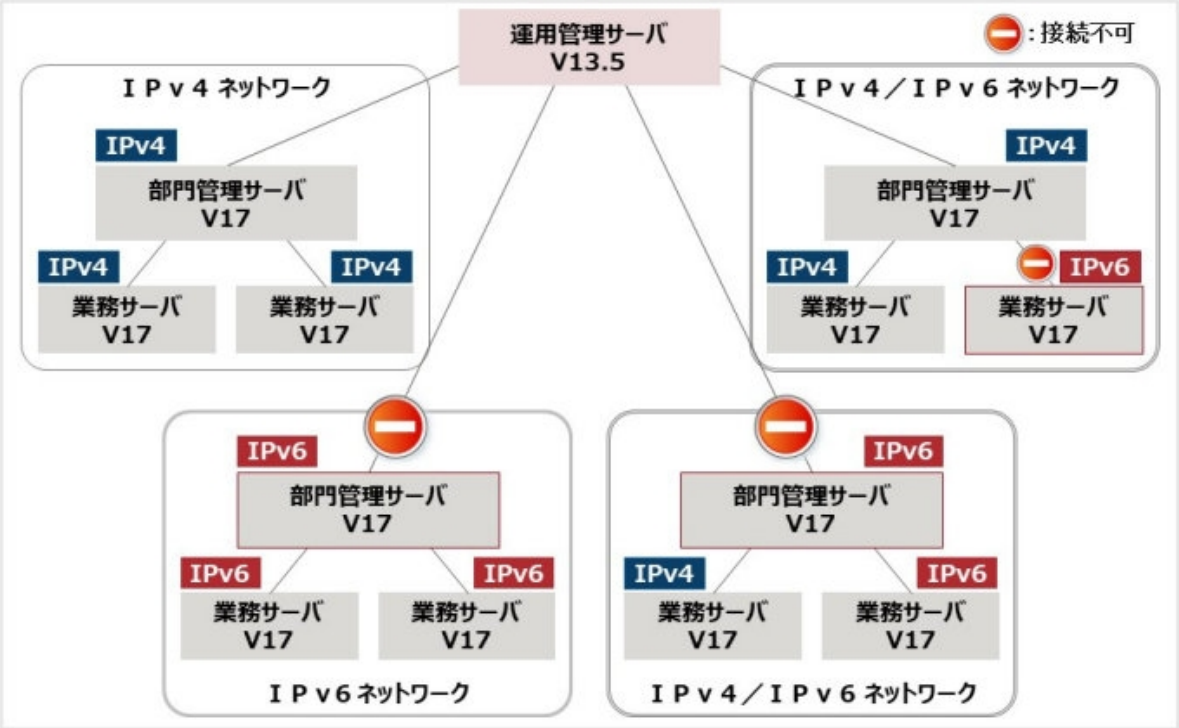
運用管理サーバ／部門管理サーバ／業務サーバがすべてV17の場合

IPv4ネットワーク／IPv6ネットワーク共に接続できます。



運用管理サーバがV13.5以前の場合

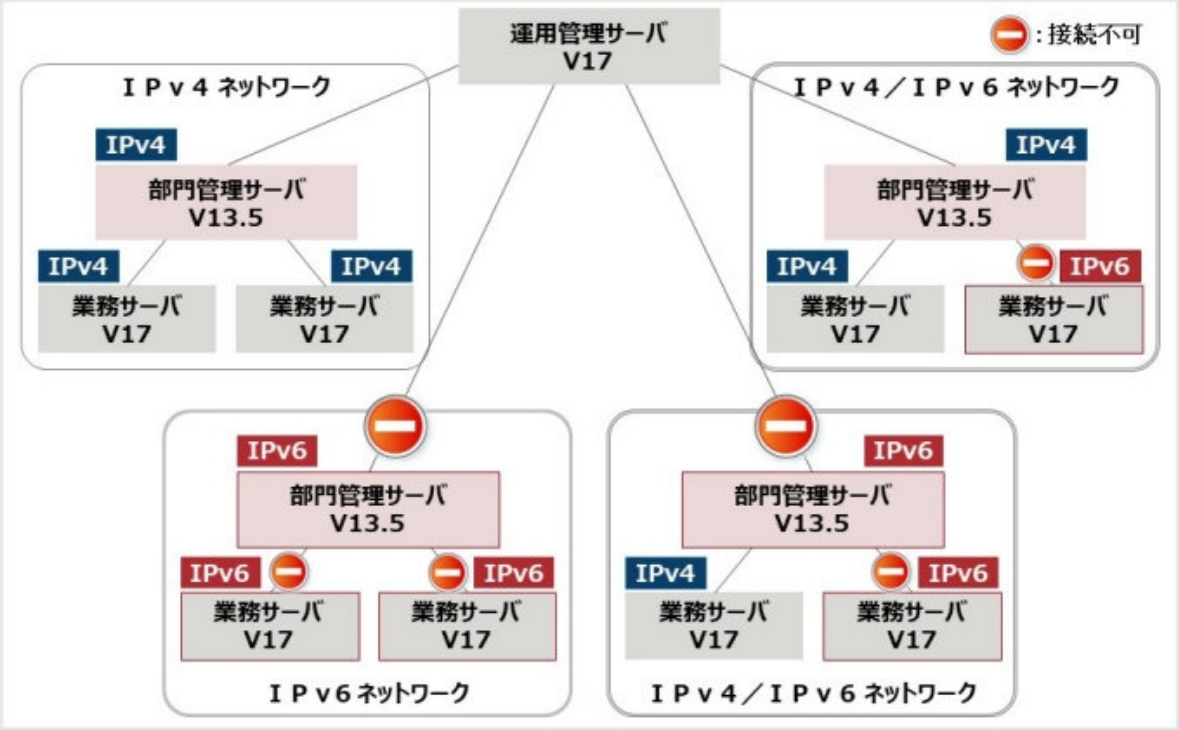
サーバ階層の上位にV13.5以前の運用管理サーバが存在する場合、IPv4ネットワークのみ接続できます。



Copyright 2024 Fujitsu Limited

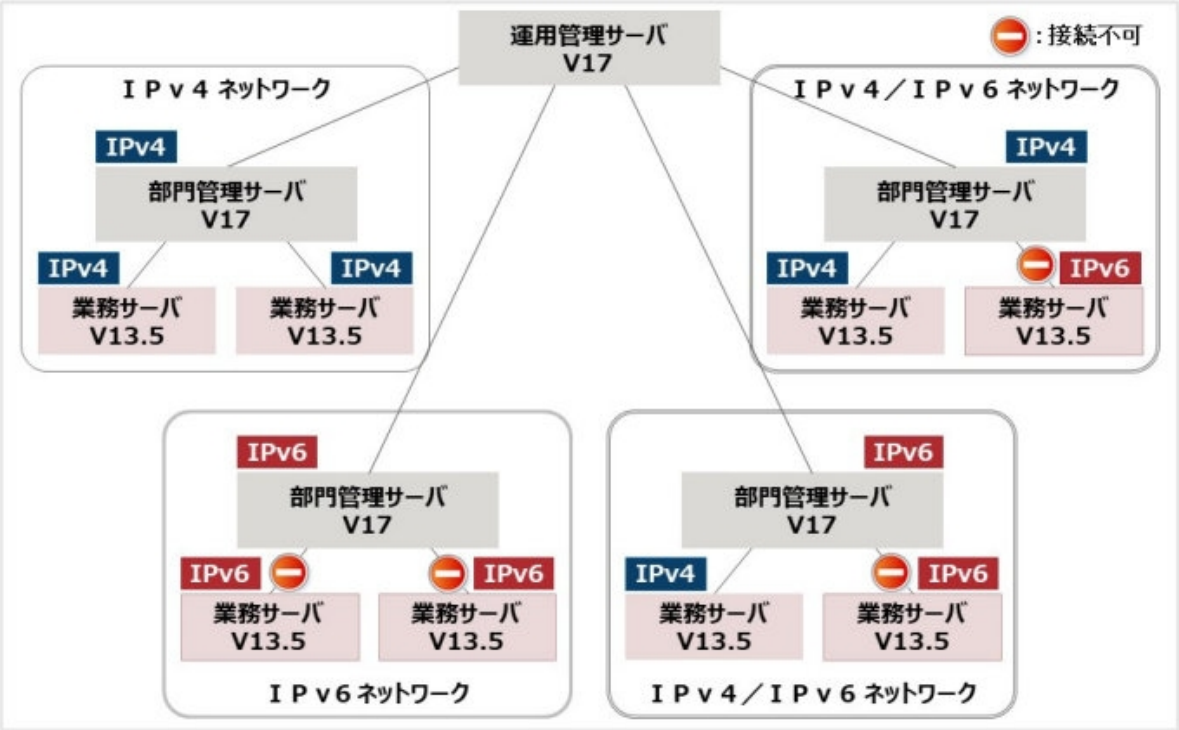
部門管理サーバがV13.5以前の場合

V13.5以前の部門管理サーバと接続する場合、IPv4ネットワークのみ接続できます。



業務サーバがV13.5以前の場合

V13.5以前の業務サーバと接続する場合、IPv4ネットワークのみ接続できます。



15．IPv6環境での動作についての注意事項

(1) 運用管理可能なIPv6アドレスの種類

Systemwalker Centric Managerで運用管理することができるIPv6アドレスの種類は、以下のとおりです。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

・グローバルアドレス

・ユニークローカルアドレス

(2)IPv6ネットワークを利用する場合の、Systemwalker Centric Managerのバージョンレベルについての注意事項

〔運用管理サーバのバージョンレベル〕

IPv6ネットワークを利用する場合は、運用管理サーバのバージョンレベルをV13.6.0以降としてください。

〔業務サーバ、およびクライアントをIPv6環境で運用する場合〕

V13.6.0以降のSystemwalker Centric ManagerをIPv6ネットワークで利用する場合、部門管理サーバ、業務サーバ、およびクライアントは、以下のバージョンレベルで運用する必要があります。

・業務サーバをIPv6環境で運用する場合、運用管理サーバへの中継サーバとなる部門管理サーバもSystemwalker Centric Manager V13.6.0以降である必要があります。

・クライアントをIPv6環境で運用する場合、運用管理サーバへの中継サーバとなる部門管理サーバ、業務サーバも Systemwalker Centric Manager V13.6.0以降である必要があります。

〔アクション（ポップアップ、音声、ショートメール）を実行する場合〕

アクション（ポップアップ、音声、ショートメール）を実行する際、アクションを要求するホストと、実際にアクションを実行するホストが同一でない環境にすることができます。

このような環境で、IPv6通信を利用してアクションを実行する場合、すべてのサーバ、およびクライアントに、V13.6.0以降のSystemwalker Centric Managerをインストールしてください。

(3) IPv4アドレス、IPv6アドレスのみを持つ、サーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視する場合の注意事項

・IPv6アドレスのみを持つサーバ（運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ）から、IPv4アドレスのみを持つサーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視することはできません。

・IPv4アドレスのみを持つサーバ（運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ）から、IPv6アドレスのみを持つサーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視することはできません。

(4) IPv4アドレス、IPv6アドレスを持つコンピュータで動作させる場合の注意事項

〔IPバージョン決定について〕

一度使用するIPバージョンが決定すると、該当のIPバージョンで処理を続けます。

〔IPバージョンの決定方法について〕

ホスト名からIPv4とIPv6両方のIPバージョンのIPアドレスが解決できる場合、Systemwalker Centric Managerは、以下のようにswsetuseipコマンドで設定したIPバージョンで通信を行います。

・swsetuseipコマンドで”IPv4”が設定されている場合、IPv4アドレスで通信を行います。

・swsetuseipコマンドで”IPv6”が設定されている場合、IPv6アドレスで通信を行います。

ただし、以下の機能については、フレームワークデータベースに登録されているノード情報を元に通信を行うため、swsetuseipの設定に関わらず、代表インタフェース、または業務インタフェースを元に通信を行います。

・ネットワークの監視

・Systemwalkerコンソールより起動されるコマンドと画面の一部

〔運用管理サーバが所属するサブネットフォルダについて〕

IPv4アドレス、IPv6アドレスを持つコンピュータ上の運用管理サーバでは、フレームワークデータベース作成時に運用管理サーバが所属するサブネットフォルダが、swsetuseip（IPバージョン設定/表示コマンド)コマンドで指定したIPバージョンにより異なります。

・IPv4が設定されている場合、IPv4のサブネットフォルダが作成され、運用管理サーバはIPv4のサブネットフォルダに所属します。

・IPv6が設定されている場合、IPv6のサブネットフォルダが作成され、運用管理サーバはIPv6のサブネットフォルダに所属します。

16．性能監視機能の機能制限

下記のOSでは、性能監視機能の一部分に機能制限があります。

Copyright 2024 Fujitsu Limited

【対象】

・ 動作OSがOracle Solaris 11.1の場合（Oracle Solaris11.2以降は、OSに修正が含まれているため対象外となります。）

【機能制限】

性能監視機能のうち、下記の機能は機能制限となります。

・ ネットワーク性能監視の機能

ただし、Oracle Solaris 11.1にSRU9.5(SRU12071)とSRU11.1.19.6.0(SRU14051)を適用することにより制限が解除されます。

【使用可能な機能】

性能監視機能のうち、下記の機能は使用できます。

・ サーバ性能監視

17. ハードウェア資源について

(1) 資源配付

携帯端末への配付を行う場合、Microsoft Windows CEまたは、Palm OSが動作するモバイル端末が必要です。

(2) 監視

イベント監視でアクション定義として指定したアクションの種類により、運用管理クライアントに以下のハードウェアが必要です。

〔音声による通知を行う場合〕

・WAVEオーディオカード（機種によりオーディオカードを搭載できない場合があります。）

(3) 障害復旧

リモートからクライアントの電源制御を行う場合、以下の条件を満たすハードウェアが必要です。

〔クライアントの電源投入〕

Wakeup on LANをサポートしている機種である。かつ、

Wakeup on LANをサポートしているLANカードが実装されている。かつ、

Wakeup on LANによる電源投入をBIOSレベルで有効になっている。

〔クライアントの電源切断〕

APM(Advanced Power Management)または、

ACPI(Advanced Configuration & Power Interface)をサポートしている機種である。かつ、

Windowsからの電源切断が可能になっている。

(4)SMARTACCESS連携

コンソール操作制御とSMARTACCESSとを連携した認証を行う場合、以下の認証装置が必要です。

〔SMARTACCESSがサポートする認証装置〕

・スマートカード

・ICカード（Felica方式）

・指紋センサー

・静脈センサー

18. ソフトウェア資源について

(1) 監視

a) ネットワーク／システムの監視

トラップの監視、MIB監視の監視対象となるノードでは、以下のソフトウェアが動作している必要があります。

- トラップの監視、MIB監視を使用したネットワーク／システムの監視

・SNMPエージェント

Copyright 2024 Fujitsu Limited

- ネットワーク性能の監視

・MIB IIをサポートするSNMPエージェント

・RMON-MIBをサポートするSNMPエージェント(RMONとして監視する場合)

- システム性能の監視

・SNMPエージェント

b) イベント監視の条件定義

「イベント監視の条件定義」のCSVファイルをEvent Designerツールで変更、参照する場合、以下のソフトウェアが必要です。

・Microsoft Excel 2013 (32ビット版/64ビット版)

・Microsoft Excel 2016 (32ビット版/64ビット版)

・Microsoft Excel 2019 (32ビット版/64ビット版)

・Microsoft Excel for Office 365 (32ビット版/64ビット版)

(2) 評価

a) ネットワークの評価

性能情報の収集対象となるノードに必要な環境を示します。

・MIB IIをサポートするSNMPエージェント

・RMON-MIBをサポートするSNMPエージェント(RMONとして監視する場合)

b) システムの評価

性能情報の収集対象となるノードでは、SNMPエージェントおよびSystemwalker Centric Managerの性能監視拡張エージェントの機能が動作している必要があります。性能情報の収集対象は業務サーバです。

(3) 監査ログ分析

監査ログ分析機能を使用する場合、運用管理クライアントに以下のソフトウェアが必要です。

・Interstage Navigator Server Standard Edition V9.5まで

または

・Interstage Navigator Server Enterprise Edition V9.5まで

19. Verified Boot機能について

本商品はSolaris 11.2以降のVerified Boot機能に対応していません。

Verified Boot機能を有効にする場合、Verified Bootポリシーで検証対象のモジュールにUNIXおよびgenunixのみを設定してください。

20. 前版との違いについて

・下記機能のSolarisでの動作はサポート対象外になります。Windows版またはLinux版で提供している当該機能をご利用ください。

- 運用管理サーバ
- 部門管理サーバ
- Open監視エージェント

・以下の機能をサポート対象外としています。

- 資産管理機能
- Systemwalker SSO/共通ユーザー管理のエージェント機能

・以下のOSをサポート対象外としています。

- Solaris 10

Copyright 2024 Fujitsu Limited

- Solaris 9
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

Copyright 2024 Fujitsu Limited

関連URL

お客様向けURL

- ソフトウェア：富士通（Systemwalker Centric Manager）

  製品概要や動作環境、導入事例、価格等、製品紹介資料を幅広く提供しております。
  https://www.fujitsu.com/jp/software/systemwalker/centricmgr/

- ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）

  「ライセンスについて、くわしく知る」の項で富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。
  https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/

Copyright 2024 Fujitsu Limited